

かみさと



学校教育目標
豊かな心もち
他のために行動できる子
やさしく かしく
たくましく

- ㊦んがえて行動 ㊦んなにあいさつ
㊦そい合って働く ㊦もだちを大切に

さいたま市立上里小学校 学校だより

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006

さいたま市岩槻区上里2丁目2番地

令和3年11月1日(月) 11月号

TEL048-794-2316

読書のすばらしさ

校長 梶山 崇

朝晩は肌寒いくらいの陽気になりました。制約の多い学校生活ですが、子どもたちは学習や運動に意欲的に取り組んでいます。

さて、私がときどき休み時間に学校図書館(図書室)に行くと、多くの子どもたちが熱心に本を読んだり、本を借りたりしています。また、学級でも読書の時間がありますが、子どもたちは学校図書館に喜んで行っている様子が伺えます。子どもたちにとっても私たち大人にとっても、たとえ本を読む時間が取れないとしても、読書の大切さは多くの方々を意識しているところです。なぜ、読書がよいのかというと、文字を読みながらさまざまな場面や登場人物の気持ちを自分で想像したり、ひいては少々大げさですが、自分の生き方も考えたりすることができるからだと私は思っています。また、自分で自分の世界を創ることも可能であるからだと思います。その点については映像を見ることでは味わえません。

例えば、4年生の国語で学習する「ごんぎつね」ですが、多くの大人の方が主人公のきつねの「ごん」が亡くなってしまうことは覚えているかと思います。学校では「ごんぎつね」を読むだけでなく、登場人物であるごんと兵十の行動などから二人の気持ちの変化などについて考えさせるような学習にも取り組んでいます。「ごんぎつね」の学習から学んだことを通して、自分なりに自分の生き方を考えることができるこんなすばらしいことはありません。

私自身もこの立場になり、読書量は担任をしていた頃より増えました。私が好きな作家の本は、以前の6年生の国語の教科書に載っていた「カレーライス」を書いた作者の本です。その方は学校を扱った作品も多く、小学校の高学年の児童の人間模様(中学生を扱ったものも多いです)や心の葛藤、いじめについての描写を扱った作品などが挙げられます。思春期に入った児童の気持ちなど、共感する部分も多いので、子どもたちの指導・支援に生かせる部分は生かしていきたいと思えます。また、その方は私とほぼ世代が同じなので、当時の社会情勢、人気のあったものなどが思い出され、自分もいろいろ思い悩み始めた小学校高学年の頃のことを思い出します。

文部科学省でも国語力を身に付けるための読書活動の在り方について、Webページ上で(略)～読書は、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるものである。特に、すべての活動の基盤ともなる「教養・価値観・感性等」を、生涯を通じて身に付けていくために極めて重要なものである。(略)。以上のように通知しています。

視覚から映像を取り入れたり、読み聞かせなどお話を耳で聞いたりすることも、もちろんたいへん有意義な活動ではありますが、今回は読書のすばらしさについて紹介させていただきました。ご家庭でもお時間があるときなどに、読書や本について話題に挙げていただければと思います。今月も本校の教育活動にご支援をよろしくお願いいたします。